

子育て支援の推進

アナ： 「市長が語る 2023 三島」第8回の今日は、「子育て支援の推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 岸田内閣の掲げる「異次元の少子化対策」や4月に誕生した「こども家庭庁」など、子どもに関わる政策が注目されています。

三島市ではどのような取り組みを行っているのでしょうか。

市長： 三島市では、平成27年4月に県内初となる「子育て世代包括支援センター」を市立保健センター内に設置し、母子保健コーディネーターと地区担当保健師が、妊娠期から継続した相談支援を行っていましたが、加えて、今年の1月から、国の「出産子育て応援交付金」を活用した、「出産子育て応援事業」を開始しております。

アナ： 「出産子育て応援事業」とは、どのようなものなのでしょうか。

市長： 全ての妊産婦の方を対象に、助産師や保健師が、母子手帳の交付時や妊娠8箇月前後、さらに、赤ちゃん訪問の時期にあわせて、アンケートや面談を行います。

面談では、その時々不安や心配事を少しでも解消できるよう、必要な情報を提供する一方で、経済的支援として合計10万円相当の応援金をお渡しし、出産準備や子育てにかかる費用負担を減らすことなどに役立てていただいております。

なお、昨年度から「みしまっ子すくすく祝い金」として、第1子が誕生した時に1万円、第2子の時に5万円、第3子からは15万円のお祝い金を差し上げております。

アナ： 今までよりも相談できる機会が増えるということですね。

それに、応援金は経済的にもすごく助かりますね。

市長： さらに、新たな支援体制の一つとして、「産前産後包括相談センター」の準備をすすめています。

このセンターでは、Zoomを活用したオンライン相談や、参加者同士が交流できるオンラインセミナー、母子手帳アプリ「母子モ」を活用した助産師による情報配信などを行う予定でおります。

アナ： ICTを活用したセンターということですね。

市長： 若い世代の方々が気軽に相談でき、また、外に出かける事が難しい産後の時期であってもご自宅などから参加していただくと考えております。

「子育てをするなら三島が一番」と思っていただけのように、今後も引き続き、安心して妊娠・出産・子育てができる環境を整えてまいります。

アナ： そのほかにも、ヤングケアラーについて支援を始めると伺いましたが。

市長： 本来、大人がすべき家事や家族の世話を子どもが担うヤングケアラーは、その責任や負担の重さによって、子どもが子どもらしく生活できなくなってしまうところに問題があると考えております。

アナ： そういう子がいたら、何かしら手を差し伸べたいと思うのですが、何か支援があるのでしょうか。

市長： はい。今年度から、「訪問型子どもサポート事業」を開始し、ヤングケアラーと考えられる子どもが行っている家事などの負担を軽減する支援を行います。

アナ： その他に、三島市が積極的に進めている事業はありますか。

市長： 三島市では、これまでも、行政だけでなく、自治会や町内会、地域の子育て支援団体、産業界が一緒になり、子どもは地域の宝事業など、子どもやその親御さんを応援してまいりました。

中でも、平成 29 年度から行っている「あかちゃんのへや事業」では、乳幼児を連れただご家族が気軽に外出できるように、街なかで授乳やおむつ替えのできる施設や事業所を「あかちゃんのへや」として登録し、どなたでもご利用いただけるよう広くPRをしています。

今年の4月には、市役所内の「あかちゃんのへや」をリニューアルし、ベビーカーのままでも入れる広々としたスペースに給湯器を設置するなど、より利用しやすいものにいたしました。

アナ： 場所はどちらにありますか。

市長： 市役所1階の市民生活相談センター隣にございますので、お気軽にご利用いただければと存じます。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。